

# TIJ 日本語教育研究会通信

No.66 2019.5.8 発行

発行：T I J 日本語教育研究会事務局

東京都葛飾区新小岩 1 - 1 7 - 1 0

[Tel:03\(5607\)4100](tel:0356074100) / Fax:03(5607)4102

E-mail: [tij@tij.ne.jp](mailto:tij@tij.ne.jp)

TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



皆様、超大型連休をいかが過ごされましたか。元号「平成」が終わり、「令和」が始まりました。世の中が新しい時代に向かおうとしています。TIJでも、2008年から11年間所長を務めた広瀬万里子が名誉所長に就任し、市川さゆりが所長に就任しました。新体制の下、国際社会に貢献する人材を育成するべく、より一層の研鑽を積んでまいりたいと思います。

さて、今年も2月に文化発表会を行いました。今までで最も多国籍の学生が在籍し、スピーチ、プレゼンテーション、劇、朗読、ダンスと国際色も豊かな変化に富んだ内容でした。今号ではその一部をご紹介します。3月には「中級から学ぶ」三訂版の文型の勉強会を開きました。若い教師とベテラン教師がグループで、学生にわかりやすい例文について知恵を出し合いました。また、実習コース修了者のレポートも掲載いたしました。

## 【本号の内容】

1. 文化発表会学生スピーチ原稿 1
2. 文化発表会学生スピーチ原稿 2
3. 文化発表会学生スピーチ原稿 3
4. 文化発表会上級クラスプレゼンテーション
5. 「中級から学ぶ」三訂版勉強会報告
6. 教育実習レポート 1
7. 教育実習レポート 2

## 文化発表会学生スピーチ原稿1-新しい経験

デキ

みなさん、日本に来て以来、生活が変わりましたか？私の場合は、とても大きく変わりました。毎日新しいことを経験しました。これから私が日本で経験したことを話します。

昨年の7月10日、日本に来て、留学生としての生活が始まりました。この1年半の間、いろいろなことを経験して過ごして来ました。

私の国はブータンです。今まで外国に住んだことはありませんし、外国人の友人もいませんでした。日本に留学する前に、外国人と同級生になるなんて、ふしぎでした。文化、習慣、考えかたがぜんぜん違うから友人になれるとは思いませんでした。もちろん人間はどんな環境にでも慣れるはずです。ですから今は、たくさんの外国人と友だちになりました。今のクラスメートには、ベトナム、中国、フィリピン、スリランカ、ウズベキスタン、ネパールからの学生たちがいます。これは面白い事の1つです。

ブータンからいっしょに日本に来た友だちの中には、肉をぜんぜん食べない純粋ベジタリアンという友だちがたくさんいます。その友だちたちは日本に来て以来、本当に肉無しの食べ物を続けるのは無理だとわかりました。例えば、フライドポテトは、ジャガイモの料理ですが、日本の店では肉を揚げた油でポテトを揚げています。これは、においですぐわかります。日本で純粋なベジタリアンで過ごすのは難しい。これは私が日本で発見したことの1つです。

日本に来たばかりのころ、日本語はあまり上手じゃありませんでした。その時、初めてバイトの職場で何回も先輩たちに いじめられました。日本に来る前にはそんなことがおこって友達になれないなんて、全然思いもしませんでした。それは日本で一番辛いことでした。世の中には友達になれない人もいます。このことは忘れようとしても忘れられません。

ブータンで日本語を学んでいたころ、「書道ガールズ」という映画を見たことで書道の概念が分かりました。昨年のお正月に寮のアパートの新年会がありました。その時、一人のおじいさんが、書道を少し教えてくださいました。そのころから書道に興味を持ちました。私が初めて書いた言葉は「正月」でした。その時から、もし時間があれば 書道をくわしく学びたいと思うようになりました。帰国しても自分で習いたいことの一つになっています。

私はこれからもいろいろなことを 経験するでしょう。皆さんも夢をあきらめないで、もっともっとがんばってください。いっしょうけんめい頑張れば 夢に近づいて、いつか叶えられる可能性があります。

いろいろな外国人と出会って、うれしいこともありました。いじめられて、もう友達になれない人もいました。

人間はどんなに辛いことがあっても、楽しかったことを思い出して、生きていけると思っています。

## 文化発表会学生スピーチ原稿2-今の私の気持ち

董辰

皆さんこんにちは。今日はこのような場所でスピーチさせていただけて、とても嬉しいです。文化発表会ですので日本の文化についてスピーチするつもりでした。しかし本やネットからの情報を寄せ集めた話より、自分の実際の体験からの話の方が説得力があると思いました。それで日本に来て6カ月経った今の私の気持ちを皆さんに聞いていただこうと思います。

半年前、日本に到着したとき「あ～ようやく憧れの日本に来たんだ！」と思いながら日本での一人暮らしが始まりました。「もう観光客じゃないんだ」と思い、不安な気持ちになりました。でもこの不安は次第に期待に変わりました。「どんな日本語が学べるのだろうか？何を食べようか？」と毎日楽しみの連続でした。この「楽しみな気持ち」は今日までの日本の生活を大きく支えてくれています。

でも、日本の生活には興味がなく、ただ勉強するために、いい大学に入ればそれでいい、と思って、毎日我慢して生活している留学生も少なくないです。そのような生活はきっと辛いでしょう。だから私はせっかく日本に留学したのだから、楽しみながら学びたいと思っています。みんなが興味のある楽しいことだけをすると、社会は回っていかないかもしれません。しかし色々なことに興味を持って楽しんで色々な事に取り組むことはとても良いことだと私は思います。

私は、最初、アルバイトの仕事内容が好きではありませんでした。日本人と一緒に働いて、仕事中は日本語でたくさん話します。それで私の日本語力はかなり伸びました。そうすると仕事が面白くなりました。日本語力が伸びたのと同時に仕事も好きになってきました。またお客様から「ありがとう」と言われると、もっと仕事に興味を湧いて、最初は好きじゃなかった仕事が楽しみに変わりました。

私は「何事も楽しむ」という考え方は勉強にも仕事にも役立つと信じています。

半年という時間は決して長い時間ではありません。でもこの半年の間に日本での留学生活で学んだこと、身についたことは本当にたくさんあります。ですから今後の留学生活も期待に満ちています。もっと多くの人と接して色々なことを学び、興味を持って楽しみながら成長していきたいと思っています。これが今の私の気持ちです。

## 文化発表会学生スピーチ原稿3-私と日本語

ハシタ フェルナンド

皆さん、日本語の勉強は好きですか。今までの勉強はどうでしたか。

実は、私は日本に来たばかりの頃、日本語の勉強が好きではありませんでした。日本語で話しても、言いたいことを伝えられなかったり、自分で話した日本語を相手が理解できなかったり、自分が3歳の子どものように感じて、とても嫌な気持ちでした。

ところが、日本に来て3か月くらいたった頃、面白いことがありました。ある日、偶然テレビから聞こえてきた音楽が、なんだか自分が前から知っている曲のように思えて、

自分の心の近くに感じられました。その時は歌の意味はわかりませんでしたが、もっとこの曲のことを知りたいと思って、いろいろと調べてみました。それは沖縄の BEGIN というグループの曲でした。

この経験がきっかけになって、音楽だけじゃなくて映画やドラマなども興味をもって見るようになりました。

皆さん、「男はつらいよ」という映画を知っていますか。

私たちが住んでいる葛飾区の柴又という所に生まれ育った寅さんという男の人の話です。どうして男はつらいのでしょうか。実は私たちと同じです。彼女がほしくて好きになっても、いつもふられてしまうからです。寅さんはいつも周りの人に迷惑ばかりかけている人です。でも心が温かく、冗談ばかり言って、自分の人生を楽しく生きていて、みんなに愛されています。

この映画から新しい日本の言葉や文化をたくさん知ることができました。

「顔で笑って心で泣く」「ご苦労さん」などは、この映画から学びました。そして、音楽や映画から、日本語の持つ力や楽しさを感じるようになりました。以前は英語で見ていた日本のアニメを、日本語で見てみたら、びっくりするくらい違った感じがして、もっと日本語で見てみたいと思いました。

その頃から、日本語の勉強が面白くなってきました。そうするとたくさんのが変わってきました。学校に行くことが楽しくなりました。

TIJ は、毎週漢字テストが2つあり、文法のテスト、そのほかに漢字マラソンが一月に1回、語彙マラソンが一月に2回、他にもまだテストがありますよね。「何でしたっけ。」期末テスト、実力テスト、中間テストなど・・・「そうですね。」いろいろなテストがたくさんあって最初は大変でした。でも、そのテストがストレスではなくなって、自分の力を試す楽しいチャレンジになりました。

また、駅のアナウンスや漢字の看板などの日本語が理解できるようになってきて、日本語は今、私の生活の一部になりました。

今、コンビニのアルバイトをしているのですが、コーヒーの機械の使い方がわからないお客様に日本語で説明して、「ありがとう」とお礼を言われた時、うれしい気持ちになりました。

自分が日本語で誰かを助けることができるようになったのは、私にとって一番うれしいことです。

今、私は日本語を勉強して本当に良かったと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

## 文化発表会上級クラスプレゼンテーション

指導 阿字地道代

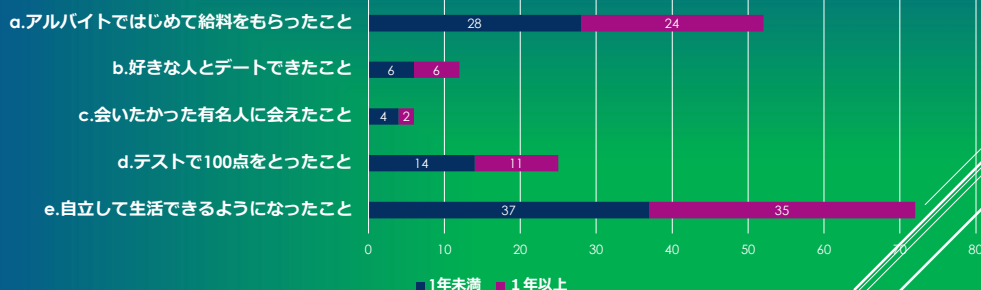
上級クラスの学生は、午前のクラスの留学生を対象に留学生活に関するアンケートを行い、その結果を寸劇仕立てで発表しました。

## 上級クラスのアンケート

# TIJの学生の留學生活

- ① 調査対象 TIJの午前のクラスの留學生94名  
(1年未満54名、1年以上40名)
- ② 調査方法 アンケート複数回答選択式、一部記述式

### <1> 留學生活で嬉しかったことは何ですか

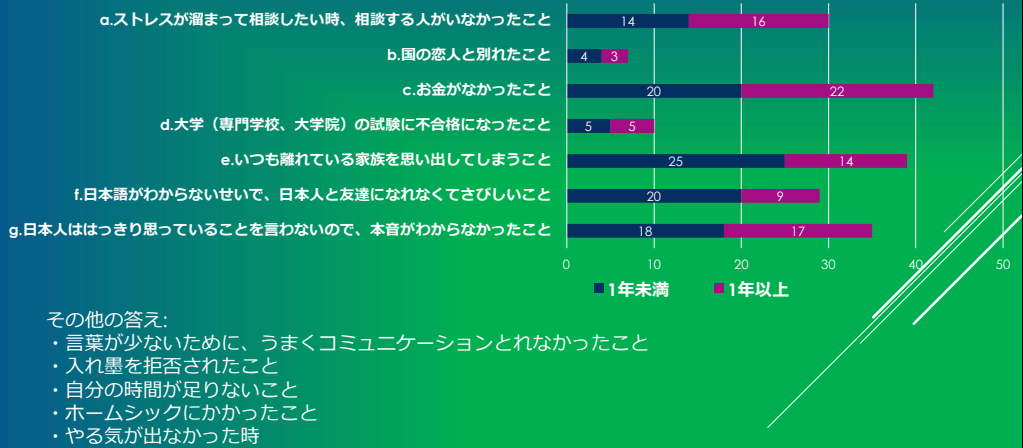


その他の答え：

- ・外国人やいろいろな友達ができたこと
- ・新しい環境の中で、一人で自由に暮らすことができたこと
- ・日本語が話せるようになったこと
- ・アルバイトの作業ができるようになったこと
- ・おすしなど、おいしいものが食べられること

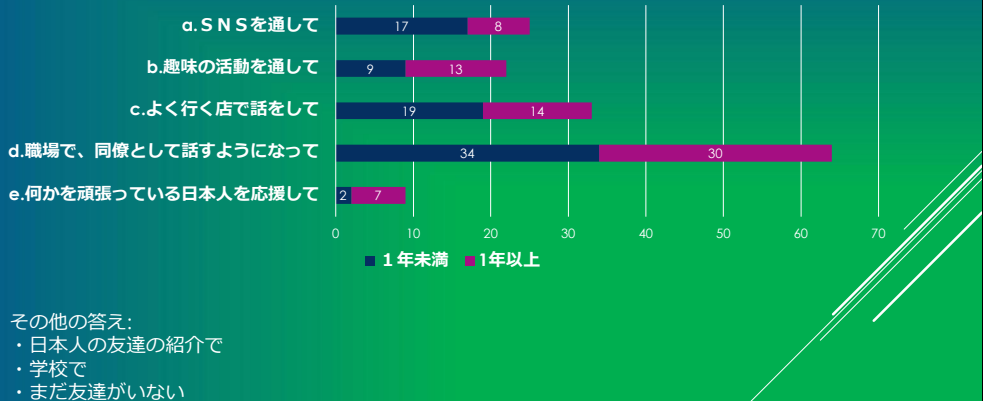
アンケートの結果から、「自立して生活できるようになったこと」が、留學生活で嬉しかったことの一番だということがわかりました。また、アルバイトで初めて給料をもらったことも上位でした。そこで、初めてアルバイトに行き、緊張して失敗した場面から、1か月経って仕事にも慣れ、給料をもらい、嬉しそうに母国の親に報告して安心させるまでのストーリーを考えました。シナリオを書き、演出についてお互いに意見を出し合いながら何度も練習し、本番では見事な演技で会場を沸かせました。

## <2> 留学生活でつらかったことや困ったことは何ですか。



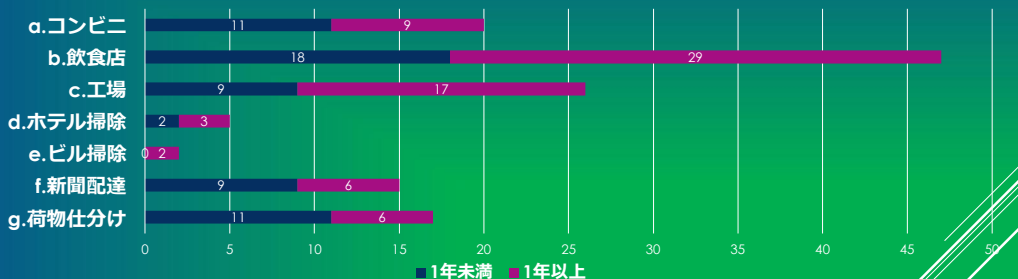
辛かったことの一番は、お金がなかったことでした。シリアスな問題ですが、優しい上級クラスの学生たちは、演じる自分たちも、観てくれる後輩たちも暗くならないように配慮しながら、分かりやすい場面をとりあげて、笑いを誘う脚本に仕上げていました。

## <3> 日本人とどうやって友達になりましたか。



アンケートの質問と回答の選択肢を学生が考えた際、「SNSを通して日本人と友達になった」という人がそんなにいるものだろうか、もっと違う選択肢を考えたほうが良いのではと案じていましたが、実際には3番目に多い回答でした。若者たちの行動は若者が良く知っているのです。また、「何かを頑張っている日本人を応援して」といのは芸能人や声優のファンサークルなどが、これにあたるそうです。時代の変化を感じます。

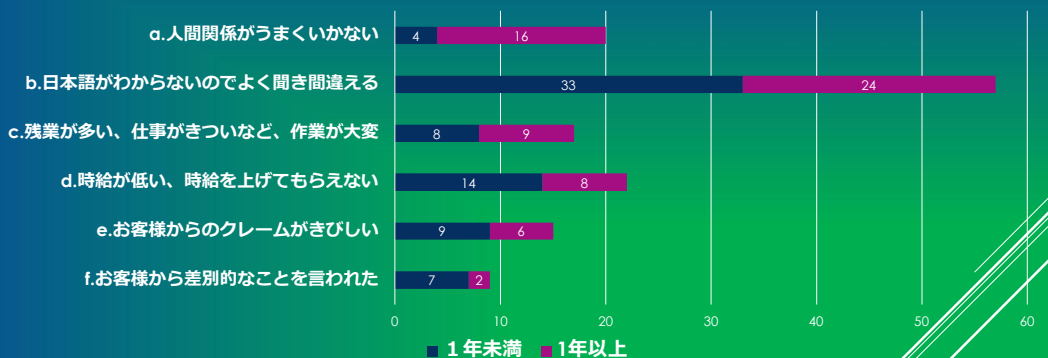
#### <4> どんなアルバイトをやったことがありますか。



その他の答え:

- ・販売
- ・英語教師
- ・古本屋
- ・リサイクルショップ
- ・データ入力
- ・アルバイトしなかった

#### <5> アルバイトでどんな悩みがありましたか。



その他の答え:

- ・時間の管理がうまくできない
- ・同じ国の同僚がいない
- ・日本人の仕事の文化（習慣）に慣れない

アルバイトで多かった悩みは、「日本語がわからないのでよく聞き間違える」というものでした。アンケート結果の集計をしながら、学生たちが口々に自分にもこんな聞き間違いの体験があると失敗談を分かち合い、大笑いしました。最終的に、ラーメン店でアルバイトをしている学生の、「塩らーめん」と「白ラーメン」を聞き間違えてお客を怒らせてしまった体験談からシナリオを作成しました。

アンケートを初級の学生用に各国語に翻訳したり、集計したり、パワーポイントを作成したりという地味な作業も含めて全員が自主的に取り組み、よく協力して多国籍のクラスメートとの友情を深め合えた発表会となりました。

## 「中級から学ぶ」三訂版勉強会報告

佐々木真佐子

勉強会（2019年3月22日）：参加講師18名

今回の勉強会では『中級から学ぶ日本語』の5課と6課の文型を取り上げました。4つのグループに分かれて(1)導入のための例文（導入方法）、(2)テキストの練習問題について話し合い、リストアップしました。皆で共有するため、各グループから出されたものを以下にまとめてみました。

### 【5課】

B. ～て／でたまらない：がまんできない感情・感覚を強調する

(1)

次のような場面を設定し、例文に導く。

#### 【感情】

①日本に来た時、どんな気持ちだった？

寂しくてたまらなかった。

家族に会いたくて 国へ帰りたくて 不安で 友達ができるか心配で

#### 【感覚】

①蚊にさされた。かゆくてたまらない。

②虫歯ができてしまった。痛くてたまらない。

③昨日の夜眠れなかった。今日は眠くてたまらない。

④冷たいものをたくさん飲んだ。(授業中) トイレに行きたくてたまらない。

(2)

1.授業中ゲームをしてはいけないと思うが、ときどきゲームをしたくてたまらなくなる  
ことがある。

ダイエットをしている／甘いものが食べたく

一人暮らしには慣れた／寂しく

日本の料理には慣れた／母の料理が食べたく

※テキストの例文1の「たばこ」を「お酒」などに変えて練習してから、他の文を考えさせてもよい。

2.ペットの犬が死んでしまったので、かなしくてたまらなかった。

友達が私の気持ちをわかってくれなかった

突然彼に別れようと言われた

第一希望の学校に合格できなかった

3.どうして彼女がもてるのかふしぎでたまりません。

すぐにお金がなくなってしまうのか

日本人は「すみません」ばかり言うのか

(寒いのに、) 短いスカートををはいているのか



4.お正月に家族と電話で話しているとき、家に帰りたくてたまらなくなりました。

ネットのニュースで国のことを見た

国の料理を食べた

母の声をきいた

5.満員電車に乗るのがいやでたまりません。

夜中にアルバイトをする

アルバイトでトイレ掃除をさせられる

日本人にじろじろ見られる

C.～（よ）うともしない：してほしいことやすべきことをしない、あきれていると  
いう感情

(1)

場面を設定し、その場面で本来はどうするのかを問う。

①朝、先生に会った時普通はどうする？ 挨拶をする。

彼は先生に会っても、挨拶しようとしなない。

②授業が始まったら普通はどうする？ 教科書を出す。

あの学生は教科書を出そうともしない教科書を開こうともしない

③満員電車の中でだれかの足を踏んでしまったらどうする？ 謝る。

あの人は私の足を踏んだのに、謝ろうともしない。

※必要に応じて「意向形」「～ようとする」の理解を確認する。

※「～ようとしなない」と「～ようともしない」の違いに注意させる。

(2)

1.妻は私からのプレゼントを開けようともせず、ゴミ箱に捨てた。

晩御飯を作る／ずっとドラマを見ている。

こっちを見よ／携帯をいじっている。

2.夫は家では寝てばかりで、自分のものを片付けようとしなない。

家事を手伝お

子供と遊ば

3.クラスメートたちは友だちがいじめられているのを見ても、助けようとしなないで、笑って見ているだけだった。

子供／遅くなっ／お風呂に入ろ／だらだらしている

友達／私が謝っ／私の顔を見よ／黙っている

Aさん／テストが始まっ／問題を見よ／ぼうっとしている

4.やくそくを守らなかつたのに、次に会ったとき、謝ろうとしなないような人とは、友達にはなりたくなない。

「ごめんね」と言お

5.何でも母親にやってもらっていたリンさんは、自分では何もできないうので、自分の部屋を片付けようともしなません。（リンさんはルームメイト）

そうじを手伝お

料理を作る  
自分の服を洗濯しよ

- D.～なんて：一人で飛行機に乗ることなんて、簡単だ。(軽視)  
社長なんて毎日ハンコを押してるだけで、面白くない。(価値を認めない)  
人前でスピーチなんてできません。(謙遜)  
これが 100 万円だなんて、信じられない。(驚き)

(1)

- ①具体的な職業を例に出し、嫌いな理由を考えさせる。  
スチュワーデス(フライトアテンダント)なんて・・・。
- ②娯楽への価値(考え方)を聞いて表現する  
ディズニーランドなんて・・・。  
ホラー映画なんて・・・。
- ③3は例文を読み、常識では受け入れられない事だとの理解を確認する。  
④4と5は学生にとって難しそうなことをふってみる。  
「この時計はXX百万円です。欲しい?」「買えますか?」 XX百万円なんて・・・  
「今度のJLPTはN1を受ける?」 N1なんて・・・。

\*その他の例文

彼氏なんて欲しくない。  
漢字なんて覚えなくてもいいと考えるのはまちがいだ。  
年の差なんて気にしない。愛があれば。  
CDなんて買わないよ。スマホに入っているから。  
～なんて食べたくない。嫌いだ。  
N2なんて簡単だ。←→N2なんて私には無理だ。(自分の基準で変わる例)  
能力試験の日に寝坊するなんて信じられない。  
あの仲が悪かった二人が結婚するなんて、驚きました。

(2)

- 1.最近のテレビなんて、うるさいだけで面白くない。  
ディズニーランド/値段が高い  
漢字練習/書く  
会議/ただ座って聞いている
- 2.時間なんてたくさんあると考えるのは、まだ若いからだ。  
学歴/なくてもいい  
勉強/いつでもできる  
貯金/意味がない
- 3.A:きのうは私の誕生日だったのに彼はわすれていて、メールもくれなかったのよ。  
B:本当、恋人の誕生日をわすれるなんて、信じられない。  
能力試験/Aさん/行かなかった/能力試験
- 4.20万円の靴なんて、高すぎて買えません。

11万円もする携帯  
オリンピックのチケット  
東京のマンション

5.A:結婚式のスピーチをおねがいしたいんですが…。

B:いえ、スピーチなんてできません。人前で話すのは苦手ですから。

パーティーのあいさつ／人前であいさつ／まだ日本語が下手です  
新入生オリエンテーションで通訳／通訳／私の日本語はまだまだです

### 【6課】

B.～といっても：誤解させないように説明する。

(1)

学生が誤解しそうなことを言い、そのリアクションを使って導入する。

①T:宝くじが当たったんです。いくらだと思う？

S:10万円。100万円。

T:宝くじが当たったといっても1,000円だけですよ。

②T:父は社長なんです。

S:すごいですね。

T:社長といっても社員は2人だけですけどね。

③T:明日はテストです。

S:えーっ！

T:テストと言っても、5分でできる簡単なものですよ。

\*その他の例文

お金を拾ったんだ。拾ったといっても、100円だけだけど。

ダイヤモンドを買ったんだ。買ったといっても、これぐらいの小さいものだけど。

〇〇語を勉強したといっても、日常会話ができるぐらいです。

(2)

1.A:ジョンさん、ギターがひけるそうですね。ずいぶん練習されたんですか。

B:いえいえ、ひけるといっても、簡単な曲だけですよ。

1曲だけです。

コード3つだけです。

2.A:毎日自分で食事を作るんですか。大変ですね、忙しいのに。

B:ええ、まあ。作るといっても、インスタントのものだけです。

作る／簡単なものばかりです。

作る／サラダぐらいですよ。

作る／温めるだけですよ。

作る／野菜を切るだけですよ。

3.A:テレビに出たって聞きましたよ。どんな番組ですか。

B:えっ、誰に聞いたんですか。出たといっても、ちょっと顔がうつただけです。

ちょっとインタビューされただけです。

ほんの一瞬ですよ。

30 秒だけです。

後ろ姿だけです。

4.A:田中さん、大学のときはバスケットボールの選手だったそうですね。

B:ええ、そうですが、選手といっても、補欠でしたけどね。

選手／試合にはほとんど出ませんでしたけどね。

選手／試合で活躍したことはありませんよ。

5.A:よく本を読まれるそうですね。日本語ではどんな本を読みましたか。

B:いえ、本といっても、エッセイのような軽いものだけです。

本／日本語の本ではないんです。

読む／子供向けの本ぐらいです。

※5：Aさんの発話文があまりよくないので実際の授業では変更したほうがよいか？

C - 1.～ものだ：一般論を表現する。それにより、相手に注意を促すこともある。

目上が目下に使うことが多い。

(1)

【社会的・道徳的ルール】

①知っている人に会ったらどうする？

知っている人に会ったら、あいさつするものです。

②目上の人にはどんな言葉を使う？

目上の人にはていねいな言葉を使うものです。

③ゴミはいつ捨ててもいい？（日本の習慣を後輩に教えている場面）

ゴミは決められた日に捨てるものです。

【一般的な考え】

学生一人一人をTがほめる T:どんな気持ち？

ほめられるのはうれしいものです。

\*その他の例文

ご飯は一粒も残さないものです。

友達は大切にします。

卒業した学生が会いに来てくれるのはうれしいものです。

仲のいい友達と旅行するのは楽しいものです。

国の料理の味はなつかしいものです。

(2)

1.名前をよばれたら、返事をするのものですよ。

2.人にほめられるのはうれしいものです。

人からプレゼントをもらう

頑張ったことが認められる

久しぶりに昔の友達から連絡をもらう

3.結婚式では、花嫁花婿以外は白い服を着ないのものです。

悪いことを連想する言葉／使わない

お祝い／偶数のお金をあげない

4. 人が話しているときは、静かにするものです。

先生が説明しているとき

病院で待っている

電車やバスに乗っている

5. 人が困っているときは、助けてあげるものです。

手をかしてあげる

声をかけてあげるもの

※「人が」より「友達が」のほうがよいか？

C - 2. ~ものではない：常識から考えてしてはいけないと相手に注意、忠告する。

(1)

C-1 からの流れで「~ものではない」を導入する。(先生が学生に注意する場面)

人のものをだまって使うものではありません。

歩きながらものを食べるものではありません。

電車の中で騒ぐものではありません。

(2)

1. 人を指さすものではありません。

人の悪口を言う

悪い言葉を使う

外見だけで人を判断する

お金の貸し借りはする

2. あいさつもせずに、先に帰るものではありません。

事前に連絡／人の家を訪ねる

断り／人のものを使う

努力／不満を言う

よく調べ／専門学校を決める

3. 相手が傷つくようなことを言うものではありません。

人がやる気をなくす

人が悲しむ

相手をけなす

4. 人と話すときは、手をポケットに入れるものではありません。

食事の／汚い話をする

人が悲しんでいる／いろいろきく

初めて会った／年齢をきく

5. 返せそうもないのに、人にお金を借りるものではありません。

お金がない／贅沢をする

謝っている／厳しいことを言う

関係ない／口を出す

D.～たつもり：勘違い、自分の意図に反する他者の理解

(1)

①場面設定として、学校に来る時（家を出る時）

鍵をかけたつもりだったが、家に帰ったら開いていた。

電気を消したつもりだったが、家に帰ったらついていていた。

窓を閉めたと思ったのに、閉めていなかった。

②例文2の導入は、例文を読み「自分の言い方が悪くて相手の誤解を誘発した」ということを説明。

(2)

1.鍵をかけたつもりだったが、じっさいにはかかっていた。

目覚まし時計をセットし／していなかった

財布を持っ／カバンに入っていなかった

メールを送っ／送信されていなかった

2.猫の絵をかいたつもりだが、みんなに「豚のようだ」と笑われてしまった。

3.クラスのみんなに伝えたつもりだったので、「聞いていない」と言われて、驚いた。

「知らない」／びっくりした

「聞いていない」／あわててしまった

4.自分では親切なことをしたつもりだが、彼には迷惑だったようだ。

余計なお世話だと言われた。

5.自分ではじょうずにできたつもりだったので、「おいしくない」と言われるとは思わなかった。(料理)

笑われる(発音)

不合格になる(面接)

一位になれない(試合)

適切な文を提示するためには、文型をしっかりと分析し、豊富な例文を集めておくことが必要不可欠ですので、皆でシェアできる勉強会は多くのヒントが得られる貴重な場ではないかと思います。授業でうまくいった導入例(失敗した例も)や学生の誤用例等を持ち寄り、気軽に話し合える場になるといいなと思います。

今回皆さんが挙げてくださった例文をまとめていて、私自身は、自分では考えないような文に接し、凝り固まった頭を少しほぐすことができたように思います。

(佐々木 真佐子)

★次の勉強会は6月27日木曜日の13時から15時の予定です。参加ご希望の方は6月20日までにTel:03-5607-4100または、メール:ajichi@tij.ne.jp(阿字地)までご連絡ください。内容はこの続きの7課の文型です。

# 日本語教育実習終了レポート 1

山田浩一郎

2018年11月28日から2019年1月22日にかけて貴校にて以下の内容で教育実習をさせて頂いたので、修了レポートを提出します。

- 目的：外国人留学生を対象とするクラスで授業を行うための PDCA の基本を身につける
- 期間：全 16 日間
- 実習内容：
  - ①授業見学  
初級から中上級までの会話、文法、語彙、聴読解、ディベートの授業を見学
  - ②授業実習
    - 初級 1,2 のクラスにおいて全 3 回の授業実習
    - それに関わる教案作成、模擬授業、実習反省

## 1. 全体を通しての感想

特に初級において、学習者が日常的に経験する場面や状況を提示し、学習者をそれに巻き込み「話したい気持ち」を喚起した上で、しかるべき日本語表現を導入、定着させるという手法で行われる授業により、初級学習者が実際の場面で使える表現を習得してゆく様を見ることができたことはとても興味深かった。一方で、そういった場面、状況を提示し学習者をその中に巻き込んでゆくための技術については、授業見学のなかで様々なヒントが得られたものの、自分自身がそれを十分に実行できるまでにはならなかった。とはいえ、3回の実習を通じて、自分のやり方の弱点や問題点に関する幾つかの気づきを得られたことはとても有意義であった。

さらに、学習項目や内容に関わらず教壇に立つ上での基本的な振る舞い方(声の出し方、身体の動かし方など)についても、実習を通じて多くを学ぶことが出来た。

以下に授業準備から実施に至るまでの段階を踏んで、自分のやり方の問題点と今後の改善の方向性について考えを整理したい。

## 2. 授業実習の反省

### 1) 教材研究

教科書の新単元に出てくる語彙や表現が新出であるかどうかのチェック、新出である場合、それを既出語彙や表現で説明する方法を検討することで精一杯になり、場面や状況を理解(共感)させるための工夫にまで十分に頭が回らなかった。今後、何を、どんな気持ちを表現したいのかを考え、それを学習者に共有させるための場面提示方法について深く考察する必要がある。

### 2) 教案作成

教案作成には相応の時間をかけたが、細かい台詞をああでもない、こうでもないと思っても、実際の授業ではその通りにならない。教案の細部に拘りすぎることは、自己満足に陥る恐れがあり却って危険であろう。それよりも、全体の大きな流れと（含む時間配分）、それぞれのセクションで何をしたいのかを明確化することが重要と考える。

### 3) 授業実施

- ① 声の出し方：最大の問題は「メリハリ」。基本的にもっとテンションを上げる。その上で抑えるところは抑える。全体に呼びかける時と個人に呼びかけるときの使い分け、セクションの変わり目（新文型導入、新しい活動など）での注意喚起など、授業全体にメリハリ（緩急）をつけることが重要。
- ② 身体の動き：録画を見直すと全体に“落ち着きが無い”印象。まず、基本的な立ち位置を決めて、そこから出来るだけ動かない。動いた後は必ずそこに戻る。絵カードを見せる時は出来るだけブラさない。ホワイトボードマーカーを持ったままにしない、など、無駄な動きを極力減らす。学習者と会話する時と板書する時をしっかりと分ける。
- ③ 板書：事前にレイアウトを考えたつもりだが不十分。基本的にたくさん書きすぎるのは良くない。板書は最低限に留める。書いて説明するよりも、言わせて習得させることの方が大事。
- ④ 指示の出し方：最大の問題は、コーラスなのか個々なのか明確でなかったこと。言葉で明確に指示するとともに、声の使い分けと身体の動きを併せてうまくリードすべき。
- ⑤ 学習者の反応が悪いとき／疑問・質問が出された時：早々に白板に向かって説明を始めてしまった。まずは学習者に正対してしっかり受け止める。その上で、まず相手に反応する。その際、教室全体の雰囲気も観察する。言葉や板書による説明は最後に。
- ⑥ 説明一般：言葉による解説に走りがちであるが、それよりも、場面・状況を改めて明確にイメージさせ、相手の納得感を引き出す工夫が重要。そのためには学習者に対する「質問」を有効活用する（市川先生）。  
「大丈夫？」や「わかりましたか？」は基本的に禁句。  
一方で、一処にあまり長く留まらずさっさと次にゆくことも大事。
- ⑦ 「活動」  
時間が足らず十分に実習出来なかったが、そのような会話が現実的に必要であることを改めて意識させるような導入が重要であろう。

### 3. 最後に

延べ 16 日間の実習を通じて、学習者の“わかった！”を引き出すことの難しさを改めて感じた。そのためには当然ながら、学習者の様々な疑問を掘り上げて手当してあげることも必要だが、むしろ（特に初級では... ?）「わかる」ところまで教師が引っ張ってゆくという“リーダーシップ”が重要でありそう。新米教師としてこのことを心



に留めて、今後の研鑽を積んでゆきたい。

研修期間中貴重なご指導を頂いた広瀬所長、市川先生、並びに諸先生方、そしていついかなる時も、なんとも場違いな小生を暖かく迎え入れてくれた学習者の皆さんに、この場を借りて改めて深く感謝申し上げたい。

以上

## 日本語教育実習終了レポート 2

H.M.

この度は教育実習コース（初級）を受講させていただき、ありがとうございました。コースではたくさんの授業見学をカリキュラムに組んでくださり、通信講座で座学のみ勉強した私にとっては、生き生きとした日本語教授の現場を直に体感でき、非常に素晴らしい経験となりました。

それぞれの先生のそれぞれの個性のもとで展開される授業はどれも素晴らしく、淀みなく流れるように進められ、授業見学も初めのうちは圧倒されるばかりでしたが、テキストの使い方や授業進行についてご指導いただき、その後さらに何度か授業を見学させていただくうちに、行われている内容や順序が少しずつ見えてきました。

また、授業見学では、初級だけでなくさまざまなレベルのクラスを見学させていただきました。レベルによって授業の進め方も内容も大きく異なり、学習者の国籍によっても、クラスの雰囲気がまるで違うことなども体感でき、とても貴重な学びとなりました。

実際に行わせていただいた1回目の実習では、あまりにも緊張し、反省点は多いはずですが、記憶が飛んでしまい全部は思い出せません。教案を見ないで行うよう教案を暗記する、ということはいまきませんでした。またそれ以外にも、学習者がすらすら言えるようになるまでリピートすべきところ回数が少なかったこと、文型を導入するときに文型自体を引き出す工夫が足りなかったこと、など、ご指摘をいただいてわかりました。それ以外にも、板書する予定だったタイミングを逃して後から書いたことなども反省点の一つです。

その後予定していただいております2回目の実習については、残念ながら現段階の自分にとっては無理であると感じ、教案作成など準備検討したうえで、自分で行うよりも授業展開を拝見することで学ばせていただきたいと考え、そのようお願いしました。内容を検討し、教案を作成したうえで授業を見せていただくと、なるほどここではこのようにするとよいのか、など、より理解ができたように思います。

3回目については、実習させていただきました。たくさんの反省点があります。

なかなか正しく言えない学習者に、もう一度言えば正しく言えるかも、と考えて3回も4回もリピートさせてしまい、その間、他の学習者に意識が向かなかったことが、まず一つ目の反省点です。上手く言えない場合、他の学習者もうまく言えない可能性があるわけで、全員にリピートしてもらうべきでした。

また、「おなかが痛いときに何を食べますか？」と聞いたとき、「果物を食べます」と

いう声が上がりましたが、(果物!? パイナップルとか!?)と考えてしまい、自分の“常識”と大きく異なることに驚いて、「ええ!? おなかが痛いときに?」と、否定する形となってしまいました。もちろん、せっかく挙げてくださったその意見を拾えませんでした。後で、すりリンゴとかもある、とご意見をいただき、なるほどそうだと思います。

これに限りませんが、意見を拾えないのは、「拾う自信がない」という気持ちから、拾わない(拾えない)ということかもしれない、と、後で考えました。

さらに、同じ「おなかが——」のときに、準備してきた「やわらかいものを食べます」を、皆さんの同意がほとんどない中、押し付けた感じになってしまったと思います。そして、皆さんが「お湯」がわからないということに気づきませんでした。これについても、後になって、あの時の皆さんの表情から読み取れたのではと、考えました。

他にも、「練習が十分か、不十分か」の把握が、十分にはできていなかったことも反省点の一つです。このように、学習者と会話・対話する余裕がなかったことが大きな反省点で、これにはやはり経験が必要と感じました。

このように反省点は多々ありますが、3回目の実習では、1回目ほどは緊張せずに落ち着いてできたことは、自分にとっては大変よい経験となりました。3回目の実習の部分はテキストの内容が比較的シンプルであったこと、行事の都合で模擬実習から実習まで一週間という時間があったことなどは、全体の流れを覚えるために非常に助かりました。

教案作成や実習後のフィードバックでは、自分では分からなかった視点、気づかない点についてたくさんのご指摘、ご指導いただき、本当に勉強になりました。

こちらで学ばせていただいた教授法やその考え方を軸に、実習の面はこれから少しずつ身につけてまいります。そのスタートとしてとても素晴らしい多くの経験をさせていただきました。心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。